

# なし管理情報 No.7

令和5年8月30日  
下野方梨組合  
魚津市農業協同組合  
富山県新川農林振興センター



## 1. 生育概況

### (1)「幸水」の収穫時期と果実品質

- ・収穫開始は、8月8日頃で、前年に比べ7日早く、平年に比べ4日早かった。
- ・収穫盛期は8月23日頃で、前年に比べ7日早く、平年並みだった。
- ・収穫盛期の果実品質は、肥大は前年、平年に比べやや不良、果実硬度、酸度、糖度は前年、平年に比べ高かった。

### (2)他品種の生育

- ・「豊水」は、前年、平年に比べ果実肥大は不良。地色の抜け、硬度は平年並みだが、糖度が高くて酸度が低く、成熟は平年より早い傾向（果樹研究センター）。

## 2. 病害虫防除

### <発生状況>

- ・黒星病：産地全体の発病果そう率は12.1%で前回調査（8/4）より減少したが、R2年から実施している収穫時の調査では最も高かった。一部園地で多発しているが大部分の園地の発病率は低い。（別紙参照）。
- ・ナシヒメシンクイ：第5世代の誘発が8月第5半旬（8/21～25）から始まった。誘殺ピーク（シンクイムシ類の防除時期）は8月末～9月上旬と推定される。
- ・ナミハダニ：7月下旬～8月上旬の高温少雨により多くの園地で発生が多い。

### <防除のポイント>

- ・（黒星病対策）黒星病の発生が平年に比べ多い園地では、罹病果、罹病葉の摘み取りの継続に加え、秋型病斑葉の増加を抑えるためにナリアWDG（2,000倍、収穫前日まで、3回以内）の特別散布を行う。
- ・（シンクイムシ類対策）「豊水」等、中生品種へのナシヒメシンクイの被害が懸念される場合は、サムコルフロアブル10（5,000倍、収穫前日まで、3回以内）を散布する。  
※R5防除暦ではアグロスリン水和剤となっていますが、今年は産地全体でハダニ類が多発しており、アグロスリン水和剤はハダニ類の天敵にも影響があるため、剤を変更しています。
- ・（ハダニ類対策）発生が見られる場合、早めにカネマイトフロアブル（1,000倍、収穫前日まで、1回）を特別散布する。  
※既にカネマイトフロアブルを散布している園で、今後も殺ダニ剤の散布が必要な場合は振興センターにご相談ください。

## <薬剤防除>

回数	散布時期	散布薬剤と希釈倍率		10a当たり散布量	対象病害虫	実施日 (自己記入)
特散	8月末～9月上旬 「幸水」収穫後 速やかに	<b>ナリアWDG*</b> 展着剤 マイリノー	2,000倍 20,000倍	350ℓ	黒霉病	
特散	8月末 「幸水」収穫後 速やかに	<b>サムコルフロアブル10</b> ※アグロスリン水和剤 からの変更 展着剤 マイリノー	5,000倍 20,000倍	350ℓ	シクイムシ類	
特散	ハダニ類 発生時	<b>カネマイトフロアブル*</b>	1,000倍	350ℓ	ハダニ類	

※ナリアWDG、サムコルフロアブル10、カネマイトフロアブルは**収穫前日まで散布可能**。

※ナリアWDGとサムコルフロアブル10は混用可能。ナリアWDGとカネマイトフロアブルは混用可能。  
サムコルフロアブル10とカネマイトフロアブルは混用可能。

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

## 3. 今後の管理

### (1) 土壌水分管理

- ・7月21日の梅雨明け以降、8月29日までの降水量は20.5mmで、平年に比べかなり少ない。中生品種に対し、土壌が乾きすぎない程度のかん水をこまめに行う。

### (2) 中生品種の収穫

- ・「豊水」は、近年に比べみつ症の発生が多い傾向があることから、取り遅れに注意する。

### (3) 礼肥の施用

- ・翌年の花芽の充実と貯蔵養分の蓄積を促進するため、礼肥を2回に分けて施用する。
- ・施用総量：硫安20～30kg/10a
- ・施用時期と施用量：
 

収穫終期	硫安10～20kg/10a
収穫終了直後	硫安 10kg/10a

### (4) 台風対策

- ・台風シーズンに入っているため、今後の「台風情報」に注意し、収穫作業、果樹棚の点検、棚の振れ防止対策などを計画的に講じる。

#### <お知らせ>

- ・管理情報と一緒に配布した「就農希望者の支援に関するアンケート」（×切9月20日）へのご協力をお願いいたします。